



森づくりサポーターニュース

平成29年(2017年) 12月20日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0102 守山市水保町2727 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス biwako@moridukuri.info URL <http://www.moridukuri.info>

森の生長ならびに生態系に合わせた 利活用と管理方法を考える(3)

今年度のシリーズ第3回は、「里の森ゾーン」13.19haです。このゾーンは一番大きくて、「ふれあいゾーン」、「出会いのゾーン」の2倍、「つどいのゾーン」の3倍の広さがあり、「ふるさとゾーン」と比較しても2ha程広いゾーンです。

里の森ゾーンは、南側の出会いのゾーンとの境・国道477号幸津川洲本バイパス予定地から、北側のふれあいゾーンとの境の市道までになっています。

植樹は、つどい→ふれあい→出会い→最後に里の森の順で、里の森ゾーンの木々の樹齢は6～11年になりました。北駐車場傍の木々は、植樹最終年度の平成25年に植樹した樹齢6年のものですが、根が活着した2年目あたりからぐんぐん伸び、生長の早いクヌギで5mを超えるものも出てきました。4月のつどいで2,000人の方々に、1m程度の2年ものの苗木を3,000本植えていただいた場所で、土壌も事前に改良され、条件は良かった場所と思われます。

さて、このゾーンの森づくりのテーマは、森の環境学習フィールドで、四季

の花や緑、木の実のある昆虫や鳥が集まる森の観察フィールドとしています。環境学習

フィールドとしては、先に樹木が生長し森の形が整ったふれあいゾーンでの学習が先行していますが、里の森ゾーンもナラガシワやクヌギのドングリ、クリの実などがたくさん採れはじめ、学習できる魅力が出てきましたので、このゾーンでの環境学習も進めていきたいと思っています。また、平成21年から地元の方の協力で植えられた「四季桜」は、今年2月に100本を超え、春、秋、正月と、きれいな花を咲かせています。(写真は11月15日撮影)

平成26年4月には、地元から強い要望があり、芝生広場に複合遊具「冒険の森」がオープンしました。当初から遊具の利用だけでなく、虫取りや芝生の上を走り回るなど、真夏や真冬、雨の日を除いて、たくさんの来園者が訪れます。しかしながら多くの来園者に、もっと森を感じていただくために、芝生広場から水路の向こう側の森へ最短距離で行ける、新しい橋を造るなどの必要性を感じています。



センター上空から北西を望む



水生生物の観察



四季桜、背景は里の森の樹林

樹木生長調査結果報告

びわこ地球市民の森では、既存木が生育するふるさとゾーンを除く4つのゾーン(出会い、里の森、ふれあい、つどいの各ゾーン)で、平成13年から25年までの13年間に90種160,967本の苗木を植樹し、今後の育樹や本数管理の基礎資料とするため、79か所のプロット(5m四方)を設定して3年毎(平成23年度までは2年毎)に樹高調査を行っています。

今回は、平成29年度の調査か所(28プロット)のうち代表的なエリアについての調査結果を報告します。

1. 調査内容

出会いのゾーン5か所、里の森ゾーン6か所、ふれあいゾーン10か所、つどいのゾーン7か所、計28か所(プロット)の樹木の樹高を測定し、生長推移や生育本数等を調べ、今後の管理方法を考察する。

なお、標準とする樹高・生育本数の数値は、「地味の低い土壌条件下で生育した樹林のデータによる予測」(緑化・植栽マニュアル、中島宏著)を参考とする。



樹高測定の様子

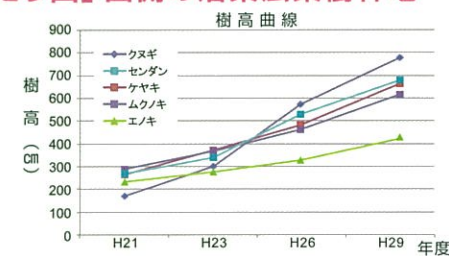
2. 調査結果

出会いのゾーン びわこ地球市民の森で一番高い「モリモリ山」西側の落葉広葉樹林地

- 全体的に生長の良いエリアで特にクヌギの平均樹高が8m近くに生長
- 生育本数は69本/100㎡(標準40本/100㎡)で今後さらに間伐が必要



H19年植栽(樹齢12年)

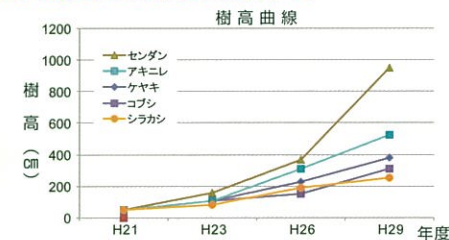


里の森ゾーン 森づくりセンター南西側の常緑と落葉が混合した広葉樹林地

- センダンの木が10m近くに達し他の樹木を圧倒
- 生育本数は38本/100㎡(標準53本/100㎡)と少ないが、他の樹木の生長を阻害しているセンダンの間伐が必要



H21年植栽(樹齢10年)

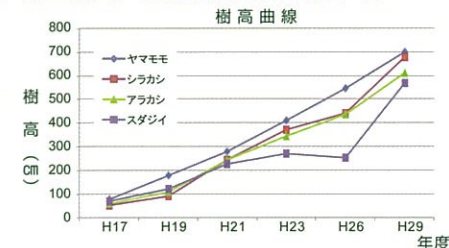


ふれあいゾーン ゾーン西側の落葉広葉樹と園路を挟んで生育する常緑広葉樹林地

- 平均樹高6.6mで標準(5m)よりも大きく、ヤマモモ、シラカシなど順調に生育
- 生育本数は30本/100㎡(標準20本/100㎡)で今後さらに間伐が必要



H16年植栽(樹齢15年)

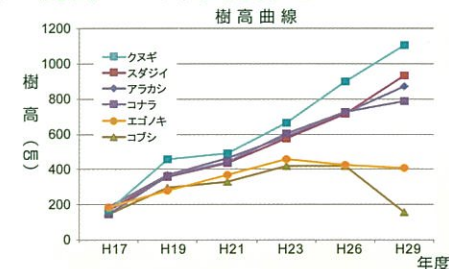


つどいのゾーン 旧森づくりセンター西側の常緑と落葉が混合した広葉樹林地

- クヌギ、スダジイなどの生長は良いが、エゴノキ、コブシは上層木に抑えられ先枯れ傾向
- 生育本数は35本/100㎡(標準10本/100㎡)で今後さらに間伐を必要とするエリア



H14年植栽(樹齢17年)



3. 考察

- 全体的に生育本数が多く、今後計画的な間伐の実行が重要
- センダンの木等、他の樹木の成長を阻害する恐れのある樹木の適切な伐採が必要
- 今後樹木の生長とともに形状比(*)の大きい木(直径に比して樹高が大きく気象害等に弱い木)を選別するため、胸高直径(胸の高さの直径)測定の導入を検討

*形状比は樹高(cm)を胸高直径(cm)で割った値で80を超えると気象害に弱く70以下が望ましい。例えば、樹高14m(1400cm)、直径(20cm)の場合、形状比は70となる。

育樹活動参加の企業・団体の紹介

「びわこ地球市民の森」の育樹活動は、「森づくりサポーター」による年4回の活動と、「登録サポーター団体」による原則毎月1回の活動の他、企業の社会貢献活動(CSR)や、有志団体の研修・地域団体の活動などでも、森づくりや公園維持活動等に参加していただいています。

この3年間で、活動に参加していただいた企業・団体を紹介します。(敬称略)

滋賀銀行、滋賀ダイハツ販売、エスサーフ、TOTO滋賀工場、平和堂、山水会、小林事務機、高島屋、楽々20、メタルワン鉄鋼製品販売、滋賀県信用保証協会、びわ湖放送、自然山部会、ゴーシューグループ、堅田電機、自然クラブのやまで遊ぼうの会、速野学区まちづくり協議会、レイカディア大学

主に下草刈りや下枝切り・間伐・小道づくりなど、森の作業を行っています。森についての勉強会・間伐材や木の実を使ったクラフトなど、室内での活動も行っています。

家族同伴で参加される企業・団体もあります。



第3回森づくりサポーター活動は、残念ながら台風21号の接近により、中止となりました。この時期になっても、強い台風が来るのは、日本付近の海水温が高いことが要因の一つだそうです。世界のニュースでも、乾燥と強風による火災や大雨・長雨による土砂崩れや氾濫などの災害を伝えています。

木を植え森を育てる森づくりサポーターの活動が、地球の温暖化の抑制や、災害をもたらすような激しい気象変動の緩和に、寄与すればと考えています。

これからも、ご協力お願いいたします。

紹介!!「森づくりサポーター」 活動団体が増えました。

平成29年6月より、地元速野学区の有志「速野の森探検隊」(11名)の皆さんが、また10月からは、レイカディア大学草津校園芸学科 38期生の「花の38会」(24名)の皆さんが、森づくり活動に参加されています。

登録団体が16グループとなります。これからも引き続き、森の手入れ(育樹)や間伐材を利用したクラフトと「森のつどい」での体験コーナー(利・活用)など、いろいろとご協力・ご提案をいただいて、楽しく、朗らかに活動していただきます。

未来の子どもたちに引き継ぐ「森づくり」を、皆様とともに進めてまいりたいと思います。



速野の森探検隊



花の38会

お知らせ

第4回森づくりサポーター活動のご案内

早春の森が、みなさんのお越しをお待ちしています。



開催期日 平成30年3月10日(土)
開催場所 びわこ地球市民の森(里の森ゾーン)
活動内容 植栽地の育樹活動と自然教室など



編集後記

今年は、大雪に始まり、猛暑そして台風と自然の厳しさを痛切に感じさせられた1年でした。

とりわけ10月のサポーター活動は、台風の影響で中止となり残念でした。

一方、森はサポーターの皆さんのおかげで、自然の猛威にも負けず年々元気に生長しています。

来年も健全な森づくり活動に、引き続きご協力の程よろしくお祈いします。

来春3月には、今年度最後の「森づくりサポーター活動」を開催します。

皆様のご参加をお待ちしています。

森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100 ~ 200m
植樹面積	80,808㎡
植樹期間	H13 ~ H25
植樹活動参加者数	45,994人
植樹本数	160,967本
森への利用者数(H28)	168,592人
森づくり活動参加者数(H28)	7,029人
内サポーター活動参加者数(H28)	2,518人